

令和3年 **1 2**月の大阪森林便り

目次

今月の木の話 **ヒノキとサワラ**

- (1)  国産合板が最高値 流通価格 丸太・接着剤上昇で
- (2)  輸入合板が一段高 東南ア工場 人手不足で供給減
- (3)  住商、建材向けに森林投資 中国や東南アジア需要狙う
- (4)  広葉樹材、2年で3割上昇 「室内に自然を」人気に拍車
- (5)  カナダ豪雨で木材反発 物流混乱

今月の木の話 **ヒノキとサワラ**

* 桧：ヒノキ科ヒノキ属ヒノキ、我が国原産の樹木。

* ヒノキの天然記念物は2本（うち1本は実質的にサワラ）。

・ 大久保の大ヒノキ（宮崎県椎葉村）：樹高 32m、樹齢 800 余年の巨樹。

・ 沢尻の大ヒノキ：畑地の南斜面、良好な土地環境で育ってきた巨木で、サワラの老木。

* サワラ：ヒノキ属ですが、ヒノキに比べて香りが乏しく、色白で軽軟。

* 巨樹では、ヒノキは 681 本、樹種別では 14 位。

・ サワラは 240 本、樹種別では 20 位。

☆ ヒノキの巨樹

順位	所在地	幹回りの長さ (M)	通称等
1	高知県窪川町	9.9	大ヒノキ
2	宮崎県椎葉村	8.0	大久保の大ヒノキ
3	山梨県富士吉田市	7.7	特になし
4	長野県三丘村	7.2	三ツ屋のヒノキ
5	茨城県瓜連町	7.0	静神社のヒノキ
5	熊本県熊本市	7.0	歳弥神社のヒノキ

☆ サワラの巨樹

順位	所在地	幹回りの長さ (M)	通称等
1	福島県いわき市	10.0	沢尻の大ヒノキ
2	岐阜県朝日村	9.6	七本サワラ
3	長野県伊那市	8.0	前平のサワラ

(2008 年発刊 (社) 大阪府木材連合会・大阪木材仲買協同組合発行「天然記念物 巨樹・古木」より抜粋・引用)

(1)  **国産合板が最高値 流通価格 丸太・接着剤上昇で
住宅着工鈍る恐れ**

- * 国産針葉樹合板の流通価格が最高値を付けました。
- ・ 今秋から急騰していて、直近 1 カ月の上昇幅は 9%に達しました。
- * 針葉樹合板 (厚さ 12 ミリ品) は、東京地区の間屋卸価格が 10 月より 9%高。
- ・ 2007 年に付けた最高値を上回りました。
- * 合板メーカー各社が 11 月出荷分から 8~10%の値上げ。
- * 国産針葉樹合板の在庫は、9 月末時点で前年同月に比べ 3 割少なくなっています。
- * 需給ひっ迫の一因は丸太不足。
- ・ 製材品の輸入が減り、国産製材品の代替需要が急増。
- * 合板に使う杉丸太の 10 月価格は、前年同月比 18%高。
- * 接着剤の値上がりも合板価格を押し上げています。
- * 製材品に続き合板の供給も滞れば、住宅着工を鈍らせる圧力が一段と高まりそう。

(2021 年 11 月 16 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(2)  **輸入合板が一段高 東南ア工場 人手不足で供給減**

- * 輸入型枠用合板の流通価格が一段と上昇。
- ・ 厚さ 12 ミリの輸入品の間屋卸価格 (東京地区) は前月比 3%高。最高値を更新。
- * 主産地の東南アジアでは、新型コロナウイルスの感染拡大で工場の人手が足りず供給が少なくなっています。
- * 2020 年 11 月の底値に比べると 34%上昇。
- * 海上運賃の高値が続くうえ、現地は雨期入りしていて丸太の出材も少なく、年内は強含みで推移しそう。

(2021 年 11 月 16 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



(3) 住商、建材向けに森林投資

中国や東南アジア需要狙う

排出枠取引には課題 効果算定、不透明な場合も

- *住友商事は2030年までに世界の森林取得に1000億円超を投資。
 - ・森林は25~30年の周期で伐採し、植林することで資源として維持します。
 - *木材需要は世界で拡大しています。
 - ・2021年は米国産製材の輸入価格が9月に2020年末比で2.75倍、ロシア産も96%高と高騰しました。
 - *森林の二酸化炭素(CO₂)吸収量を見積もって排出枠として取引するには課題も。
 - ・森林のCO₂吸収効果の算定などが不透明なケースがあるからです。
 - ・森林のCO₂吸収量は樹木の種類で変わります。
- (2021年11月19日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(4) 広葉樹材、2年で3割上昇

「室内に自然を」人気に拍車

コロナで伐採減 木製家具高く

- *木製家具の値上げが相次いでいます。
 - *針葉樹材の高騰「ウッドショック」が騒ぎになっていますが、家具に使う広葉樹も値動きは異なりながらも高値。
 - *広葉樹の価格は2年前に比べ3割上昇。
 - *住宅の構造材に使う木材は杉や桧、松などの針葉樹。
 - ・比較的まっすぐ育ち、軽いのが特徴。
 - *家具に主に使われるのは、ナラやタモ、ケヤキといった広葉樹。
 - ・堅くて重い。
 - *広葉樹が高騰した短期の要因は、コロナ禍のコンテナ船の混乱に伴う海上運賃の上昇と供給力の不足。
 - ・長期的には木製家具の人気向上も。
 - *誇張な需要と供給の制約。木製家具の高値は続いていきそう。
- (2021年11月25日 産経新聞記事より抜粋・引用)

(5)  **カナダ豪雨で木材反発 物流混乱**

*カナダ西部から米国にかけて発生した集中豪雨で物流が混乱し、北米市場で木材価格が反発。

*木材先物価格は急騰し、直近底値から 48%高。

*一部の工場が稼働を停止。

*米国の冬場は住宅の不需要期のため、木材価格の上昇が続くかは不透明。

*週南部では地すべりの危険性から伐採自体が止まっています。

(2021年11月27日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

